

ハイデルベルク信仰問答より

問 123 第二の願いは、何ですか。

答え 「御国を来らせたまえ」であります。私たちが、ますますあなたに服従するために、御言葉と御霊によって私たちを支配してくださいということであります。あなたの教会を保ち、増してください。悪魔の業、あなたに逆らって立つすべての力、聖なる御言葉に反して考え出されるあらゆる邪悪な企てを、滅ぼしてください。そうして、あなたがすべてのすべての御国の完成を来らせてくださいということであります。

〔別訳〕

答え 「み国を来たせたまえ」です。すなわち、あなたがすべてのすべてとなられる御国の完成に至るまで、わたしたちがいよいよあなたにお従いできますよう、あなたの御言葉と聖霊とによってわたしたちを治めてください、あなたの教会を保ち進展させてください、あなたに逆らい立つ悪魔の業やあらゆる力、あなたの聖なる御言葉に反して考え出されるすべての邪悪な企てを滅ぼしてください、ということです。

「御国を来らせたまえ」——「主の祈り」の「第二の願い」は、地上の世界を（永遠の神の国と同じように）神の愛で満たしてください、という祈りです。私たちは、この地上には未だに「真の平和」が実現していないことを知っています。争いなくしては生きられない人々が存在するからです。そのような世界にあって、キリスト者は「神の国の平和」が広がっていくと信じ、その橋渡しとしての役割が与えられていることを自覚しています。「神の国」は、空の彼方にあるどこかの話ではなく、実は私たちの心の中から始まるものなのだと、主イエスは教えてくださいました。

ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスはお答えになった。「神の国は、観察できるようなしかたでは来ない。『ここにある』とか、『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの中にあるからだ。」（ルカ17:21）

私たちが神のことばを聞き、自分の思いや価値観ではなく、御霊に導かれて歩いていくとき、そこに「神の国」が少しずつ形づくられていきます。神の無条件の愛にふれた人——つまり救われた人は、愛されているがゆえの自由を、関わりある人々にもたらししていくことができるのです。とはいえ現実には、私たちの内にも、教会の中にも、神の国とは反対のものが入り込んでくることがあります。争い、不信、自己主張……それらは、「御国」とは逆方向の力です。

だからこそう祈ります。「主よ、あなたの国（支配）を、来らせてください」と。

この祈りの中には、三つの領域における願いが含まれています。

①「自分自身」の心の支配を神に委ねること

——御言葉と御霊によって、今日も私の心を治めてください。

②「教会」の守りと成長を願うこと

——信仰の仲間たちと、愛と真理のうちに生きていけるように。

③「世界」が悪の力から解放される「御国の完成」を待ち望むこと

——キリストが再臨し、神が「すべてのすべて」となるその日まで、望みを抱いて。

この祈りは、これら一つひとつの領域において**神の主権を受け入れる決意**でもあります。そして、これらは「別個」のものではなく、相互に関連し合ってもいます。自らの心の中においても、教会という共同体の中にあっても、世界に生きる一人の人間としての自覚を持つときも、あらゆる場面で「自分中心」から「神中心」への転換を認識することができる。それは、日々の生活の中で、何度でも祈り直すべきことです。「**御国を来させたまえ**」——それは、世界のための祈りであり、私自身の変化を願う祈りです。今日もまた、この祈りを胸に、神に従う一日を歩み出しましょう。